

## 第5回緑の基本計画検討部会 摘録

### 1 開催日時

令和7年6月2日（月）午後2時00分～3時45分

### 2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第4会議室

### 3 出席者（五十音順、敬称略）

委員（7名中6名出席）

委員 井原 縁

委員 谷 萌子

委員 橋本 佳織

委員 深町 加津枝

委員 町田 誠

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

### 4 次第

(1) 開会

(2) 審議

素案（前半）の審議等

(3) 閉会

## 5 会議録 <委：委員、事：事務局>

### 議題：部会長の選任

事：

本部会の委員については、今年度当初、京都市都市緑化審議会会長から選任いただいている。  
本日は、本部会の部会長について、他薦をいただき選任させていただきたい。

委：

ご見識や昨年度も本部会の会長であられたことを踏まえて、深町委員を推薦する。

事：

深町委員をご推薦いただいた。ご異論がなければ拍手をお願いします。

(一同拍手)

事：

それでは、深町委員に今年度の部会長を務めていただく。

## 議題：本文案について

委：

前半の魅力発信パートと後半の行政計画的なパートでは、意識的にタッチを変えてほしい。写真と解説文のスタイルはこのままで良いが、各ページに書かれた文章は役所らしさを感じる部分があり、もっと柔らかくできると感じる。

例えば、書き出しの「京都は、」等の読点の使い方には気をつけるべきである。また、【理念】ページの「みどりやそこから～」といった表現は、正確さを重視した結果だと思うが、より流れるような読みやすい文章にするためには、削除した方が良い。

「創造」「景観」のような行政的な用語や、「～をはじめ」、「～といった」、「～につながる」という言葉の書き替えも検討すべきである。写真集を読みたい人向けのワーディングを意識するといいい。

文章の分量は、短すぎるのもどうかと感じる。例えば【草地】ページの分量では少なく感じられるので、もう少しボリュームがあってもいい。

委：

すべて「京都には」からはじまるのは、それぞれのみどりの事が知りたいのに、それが頭に入ってくるの理由の一つである。【丘】ページの「神楽岡」のように、市民があまり知らない場所の名称等、分かりにくい単語のフォローは必要である。

事：

よりすっきりとした分かりやすい表現にブラッシュアップしていきたい。分かりにくい単語については、デジタルブックからのリンク機能の充実も対応策の一つと考えている。

委：

2章の各ページについては、京都のことと分かっているのであえて「京都には」と書き始めなくても伝わる。

車いす使用者の視点では、写真を見て行きたいと思っても、バリアフリー対応がされているのかが分からないと行きづらい。

事：

バリアフリー対応状況についても、デジタルブックにリンクを作成することは可能であるので、可能な限り検討したい。

委：

本計画を読んで興味を持った方が実際にその場所に行けるように、情報提供の工夫をすべきである。

委：

【街路樹】ページについて、烏丸通から近代的な街路樹整備が始まったとの紹介も入れてはどうか。【庭園】ページについては、文中で紹介されている公共空間だけでなく、個人邸（町家）も京都の庭園文化を彩る場所なので、追加で紹介すべきである。【名木】ページについては、「歴史を見守りつづけてきた」のような表現を加えてはどうか。

委：

「京都には」という書き出しは、1章の【理念】についてはあえて書く必要があると思うが、2章の各ページについては必要ない。

【坪庭】ページについて、坪庭は歴史的な住まいの環境に付随するものであり、京都らしさを出せる所である。この点に関するニュアンスを足すことが望ましい。

【草地】ページについて、「～をはじめ」という表現をもう少し柔らかくできると良い。「河川敷」という単語についても、「河原」の方が暮らしの日常環境に近く、妥当な表現かと思う。

委：

【庭園】ページについて、「京都には」から始めずに、「京都の豊かな自然と調和する庭園」という表現があると、より京都らしさをにじませられるのではないか。

委：

写真について、基本的に京都市の職員が撮影したもので統一するという方針は、担当者の気持ち伝わり良いと思う。しかし、レベル（水平）が取れていない写真については、適宜修正すべき。

委：

【校庭】ページの写真について、学校は桜がきれいな印象なので、そういう写真を撮ってもらえたら良い。

委：

掲載する写真は、まずは京都市の担当者が撮影した写真を使うことを柱にしつつ、計画の利活用として写真応募等を別途企画しても良い。

委：

ページの写真は10年近く前のものではなく、樹木の成長を踏まえ、できるだけ最近の写真を使用すべきである。

## 議題：イラストの方向性について

委：

イラストは16枚作成するとのことだが、16名の作家にそれぞれ描いてもらうのか。

事：

16枚のイラストを、7～8名の作家にそれぞれ2枚程度ずつ描いてもらう想定である。

委：

複数の作家による異なる絵のタッチが混在することは問題ないとする。

イラストの場面については、季節は春夏秋冬、時間帯は朝昼夜が揃うことが望ましい。加えて、雨の日のような天候もできれば網羅してほしい。さらに、イラストに登場する人物は、幼児や高齢者、地域住民、受験生と保護者など幅広い層が反映されるべきであり、ニューファミリーだけでなく多様な人々を描くよう配慮が必要である。

作家への依頼時には、作家の自由にまかせてしまうと見栄えの良い場面ばかりになる恐れがあるため、依頼方法を工夫してもらいたい。

事：

天気や季節、様々なシーンをできるだけ網羅したテーマになるよう検討をする。作家への依頼時は、具体的な写真やテキストなどのイメージ資料を使って細かく内容を指定する予定である。

委：

登場人物の多様性という点では、バリアフリーの場面が象徴的に描かれることも重要である。

委：

京都ゆかりの多様な作家に描いてもらう方針は柔軟が良いが、それぞれ得意な画風が異なるため、事務局でテーマとの適合を見て割り振ることが重要である。画風の異なる作品が無秩序に混じると雑多で混乱した印象を与えるため、調整が不可欠である。

イラストのテーマについて「はぐくみや学びの場となるみどり」と「色々な人が協力して守り育てているみどり」で表記の異なる「はぐくみ（育み）」が重複しているので、書き分けと整理が必要と感じる。

事：

作家の意向も聞きながら、個別ヒアリングを重ねてどの方に何を描いてもらうかを検討する。テーマ内の表現やワードについては再度確認し、整理する。

委：

作家との個別の協議も大切だが、イラスト全体が計画や誌面のなかでどう構成されているか、他の作家との分担の状況といった全体像を共有し、仕上がりイメージを共有した上で進行することが望ましい。

作家の中には自身の作品の修正に抵抗を持つ方もいるため、個人の作品としての良さを尊重しつつも、この計画で伝えたい内容を的確に共有しながら協議していくべきである。

事：

作家には計画の趣旨や理念を丁寧に説明しながら、イラスト全体のイメージも示したい。

誌面のレイアウトによってイラストの見え方が変わるため、異なる画風のイラストをすっきり見せるレイアウトも考慮に入れ検討を進める。

## 議題：モニタリング方法について

委：

指標の点数配分に関して、市民アンケートと庁内ヒアリングのウェイトが1対1であることについて、誰もが納得できるかどうか疑問である。生活している市民の感覚のウェイトを大きくすべきではないかという意見も想定されるため、きちんとした根拠に基づく評価の配点やバランス、項目数を示せるように検討をお願いしたい。

事：

分かりやすさを重視し、事務的な負担も考慮した結果、項目や配点をなるべくシンプルに設定した。複雑すぎるとレーダーチャートが難解になり、分かりにくくなると考えている。

委：

市民アンケートは、どのように点数化されるのか。

事：

市民アンケートは500人程度を対象としたアンケートを想定しており、そのうち7割の人が実感があると回答すれば、0.7点となる。「実感がある」とは、例えば、[資料3](#)のp17に示す一つ目の設問の選択肢のうち、少なくとも1つは該当するものがあることを意味する。

委：

市民の意見と市役所の取り組みの比率が1対1で良いのかという問題提起があったが、他の委員のご意見はどうか。

委：

難しいところだが、市民の方が圧倒的に総数が多いことを考慮すると、7対3程度の比率で見るのが妥当かと思う。

委：

やはり市民の意見の割合を増やす方が良いと感じる。

委：

庁内ヒアリングの対象は、市役所の全ての部署か。

事：

みどりに関連する事業を行う10部署程度を想定している。

委：

比率については、内容、施策によると考える。今回の指標は市民の声を反映することに重きを置いているため、市民アンケートの結果を重視することは妥当である。

ただし、7つの軸（施策の方向性）のうち、「①豊かな自然環境」や「②多様な生きもの」のような客観的な数値で判断できる軸についても6割や7割の市民意見のウェイトが必要かは疑問である。むしろ河川部局や森林部局など縦割りになりがちな部署のヒアリングにより、具体的な取り組みを評価することが重要といえる。

一方、「⑤多彩な交流とまちの活力」や「⑥地域力の発揮」といった日常的な感覚が重要となる軸では、市民アンケートの割合が大きくなることは妥当である。

指標の分かりやすさも重要であるが、このように内容によって傾斜をつけ、大きく2パターンに分ける等の方法も検討する余地がある。

委：

全体的な意見の傾向としては、工夫の余地があるということであろう。全てをまとめて同じにするのではなく、市民アンケートと庁内ヒアリングで分けてレーダーチャートを作成し、その結果を最終的に統合する際に、どのような考え方で比率を決定したかプロセスを示すことが重要である。

比率を2つのパターンに分けることも含め、個別に相談しながら検討を進めていくこととしたいがどうか。

事：

7軸それぞれに配点を変えるのは、説明が難しい。提案のとおり、いくつかのグループに分けるのが現実的であろう。例えば3つの方針に基づく3グループに分けるか、あるいは市民の実感がより重要となる軸はAパターン、そうでない軸はBパターンという2グループに分けるなど、いくつかの案を検討し、委員の意見も伺いながら最終決定したい。

委：

比率のパターンとしては5対5、あるいは6対4程度の感覚が現実的であろう。7対3まで傾けると偏りすぎである。

大きな方針に基づいてどちらの比率を用いるかを定めることにより、真の成果に結びつくレーダーチャートとなるのだということを説明できるようにすると良い。

## 議題：情報発信イメージについて

委：

提示されたイメージは、現在のホームページよりは格段に良くなっていると感じる。

委：

基本はデジタルブックでの発信とのことだが、ホームページからのダウンロードだけでなく、他に方法はないか。例えばポスターにQRコードを載せてタブレットやスマホで見られるようにしたり、町内掲示板や広報に掲載したりすることである。

京都市のホームページは一般には分かりにくい場合があるため、簡単にアクセスできる方法も検討すべきである。

委：

個別のホームページが改善されても、全体のアクセシビリティが課題である。どのような場所に情報を掲載するか検討が必要である。

委：

多くの人の目に触れるように掲載してほしい。本部会に参加するまで、このような取り組みがあったことも知らなかった。身近なものとしては、ポスターのQRコード、回覧板、市民しんぶんなどがあり、QRコードが掲載されていればアクセスするきっかけになるだろう。

委：

私は区民しんぶんで区の情報を見ており、図書館でもそのような情報を目にすることができる。

委：

基本的にホームページをより親しみやすいコンテンツにすることは重要である。

あえて言えば、モニタリングの発信方法に検討の余地がある。「モニタリング」という表現が一般には分かりにくいので、「計画の進捗状況」といった表現に留める方が良いかもしれない。モニタリングと主な取組の発信については、他の情報とは異なるものなので、位置づけや書き方をさらに検討する必要がある。

(以上)